

県本部第113回定期大会

日時：2023年10月13日(金) 13:00～
14日(土) 11:30(予定)
会場：郡山市「ホテル華の湯」
議案：2024年度運動方針(案)、2024年度
一般会計・特別会計予算(案) ほか

自治労福島

自治労福島県本部機関紙

E-mail:syokichou@jichiro-fukushima.or.jp

第842号

2023年(令和5年)

8月31日

福島市荒町1-21

自治労福島県本部

発行人 澤村英行

がんばろう福島

アフターコロナの運動展開へ

集会・学習会を精力的に開催

自治労福島県本部は、8月10日～11日にかけて、2023県本部労働学校を開催。県内各地から大勢の若手・女性組合員が参加した。また、8月11日の午後には男女平等・労働安全衛生集会を開催。こちらにも多数の組合員が駆け付けた。6月から8月にかけては第42回全日本自治体職員スポーツ大会福島県大会も開催してきたところである。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、県本部はコロナ禍前の活動を取り戻しつつある。

労働安全衛生って何？

県本部は、8月11日午後、福島市「ホテル福島グリーンパレス」で男女平等・労働安全衛生集会を開催した。集会では、冒頭、男女平等・労働安全衛生委員会を代表し、佐藤寛喜両委員会委員長(県職連合出身)があいさつ。男女平等・労働安全衛生の取り組みの強化を求めた。

その後、労働安全衛生集会に移り、鈴木茂県本部書記長が労働安全衛生の取り組みについて、基調提起を行った。基調提起の中で、鈴木書記長は「労働安全衛生は地味で目立たないものだが、職場に密着した大事な課題。労組としてしっかり取り組んでいかなければならない」と訴えた。



講師の自治労本部・八巻由美労働条件局長

身近にいる存在として

自治労は男女平等の推進を自治労運動のすべてに関わる課題として位置付けている。本集会は男女平等推進闘争を進めるにあたり、意思結集を図る目的で開催するもの。本年の集會では、宮城県で活動している多様な性に関する活動に取り組む任意団体「にじいろC ANVAS」共同代表・小浜耕治さんを講師に迎え、「性的少数者と就労」の演題で講演を頂いた。

小浜さんは冒頭、自らの生い立ちに触れ、当事者として苦悩した過去について話した。その上で、当事者の立場で、多様な性の在り方やトランスジェンダーについて触れ、性的マイノリティの困難や課題について語った。「割合的には職場にいても不思議ではない。身近な存在として受け止めてほしい」。小浜さんの言葉には、当事者の強い思いが込められてお

労働学校で若手・女性組合員が学習



講師の小浜耕治さん

自治労は、これまでの「男女が共に担う自治労計画」から「自治労ジェンダー平等推進計画」への方針変更を第97回定期大会で確認した。男女平等参画を取り組みつつ、多様性を認め合う職場や社会の形成に向け運動も転換点を迎える中において、意義ある集会となった。



久々の分散会で単組間交流を深める

県本部は8月10日～11日の2日にわたり、2023県本部労働学校を開催した。人材育成を目的に若手層・女性組合員を主な対象とし実施した。澤村英行中央執行委員長は「労働組合と政治に関する内容を、多岐に渡った。また、今回の労働学校では分散会も開催。私

の職場の課題」と題し、6班に分かれ話し合った。分散会では主に超過勤務や人員不足といった課題に発言が集中。これら課題の解決のためにも組合へ結果することが大切であると認識を共有する契機となった。

2023人勤

月例給0・96%、一時金0・10月引き上げ勧告

人事院は8月7日、月例給3,869円(0・96%)、一時金を0・10月引き上げる勧告を行った。え、期末手当および勤勉手当に0・05月分ずつ均等に配分するとした。

同日、自治労は今次勧告に対する見解を示した。この中で、昨年に引き続き、初任給、月例給、一時金が引き上げられたこと、一時金の引き上げは期末手当にも配分されたとともに、若年層に重点を置き、初任給をはじめそこから改定率を通減させる形で俸給表全体を引き上げるとした。

また、月額3,000円の在宅勤務手当の新設について勧告した。

一時金については、0・10月分の引き上げ。高齢層への引き上げ額の配分は不十分であると、

紙面の都合により、「私の名刺」は休載となります。

統一自治体選結果報告



須賀川市議選 深谷 政憲 氏

会津若松市長選 (7/23告示、7/30投開票)
当選 室井 照平 23,231票
(無・現④・67歳)

会津若松市議選 (7/23告示、7/30投開票)
当選 高梨 浩 1,442票
(無・現③・59歳)
当選 松崎 新 1,298票
(立・現⑥・64歳)



会津若松市長選 室井 照平 氏

須賀川市議選 (7/30告示、8/6投開票)
当選 深谷 政憲 1,334票
(無・現②・66歳)

郡山市議選 (7/30告示、8/6投開票)
当選 八重樫小夜子 2,412票
(立・現⑧・73歳)
当選 飯塚 裕一 1,891票
(立・現③・66歳)
柳田 尚一 1,347票
(立・現②・67歳)



会津若松市議選 高梨 浩 氏

※下線を付した太字の方が、組織内候補として推薦した方です。

第42回全日本自治体職員スポーツ大会福島県大会結果

野球・バレーボールともに福島市職労が優勝！！

バレーボール

(優勝) 福島市職労



(準優勝) 桑折町職労



(敢闘賞) 野田亜美選手 (桑折町職労)



(最優秀選手賞) 小林 蒼選手 (福島市職労)

野 球

(優勝) 福島市職労



(準優勝) 会津美里町職労



(敢闘賞) 星 侑介選手 (会津美里町職労)



(最優秀選手賞) 古山雄一選手 (福島市職労)

県本部・共済県支部は、第42回全日本自治体職員スポーツ大会福島県大会について、バレーボールは8月6日(日)に相馬市・スポーツアリーナそらまで、野球の準決勝以降は8月17日(木)福島市・飯坂野球場で開催した。

コロナ禍が明け初めてのバレーボール大会は10チームが参加し、一日開催のタイトな日程で行われることとなった。

福島市職労は、1回戦で強豪のいわき市職連合と対戦。奇しくも1回戦から強豪同士の対戦とな

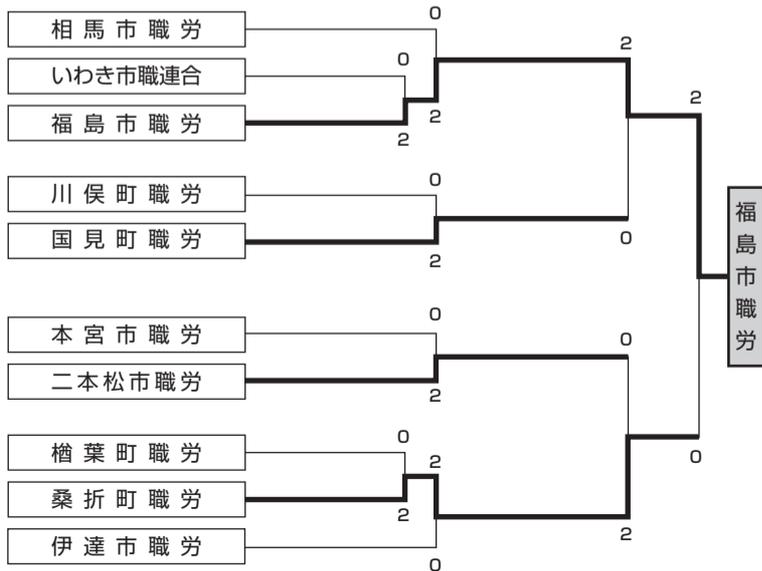
ったが、福島市職労が一回選を突破。以降は順当に勝ち進み、決勝は同じ東北総支部の桑折町職労との対戦となった。結果、福島市職労が勝利し、優勝を果たした。最優秀選手賞には福島市職労・小林蒼選手、敢闘賞

には桑折町職労・野田亜美選手が選ばれた。野球は6月15日(木)に初日が行われたが、二日目の準決勝以降が荒天のため順延となっていたことを受け、開催されたものの二本松市職労、会津美里町職労、いわき市職

連合、福島市職労の4チームが準決勝への進出を決めていた。結果、決勝で福島市職労が会津美里町職労との接戦を制し優勝を決めた。最優秀選手賞は福島市職労・古山雄一選手、敢闘賞は会津美里町職労・星 侑介選手が選出された。

野球バレーボールいずれも優勝チームは10月5日(木)～6日(金)に開催される東北地連大会へ出場することになる。両種目における福島市職労の益々の活躍を期待したい。

バレーボール



野 球

